

地域共催型公開講座における託児サービスの実践研究

— 託児体験学生の自己評価とサービス利用者の感想からみた分析 —

A case study of “day care for infants” service at Community and S College to jointly sponsor a local university extension course
— Analysis based on self evaluation of students who experienced “day care for infants” and parental comments from service users —

武田 俊 昭*
金山 千 広**
碓 氷 ゆかり***
高 田 正 久****

Abstract

This study is focused on an infant day care service for under 3-year-olds that accompanies the university extension co-hosted by S College, a civic hall (kominkan), and a local women's group. The objective of this study is to review the self evaluation of students who experienced the “day care for infants” and the comments from parents who used the service, and check the effectiveness of the “day care for infants” service accompanying the Training Course for Kindergarten and Nursery School Teachers of S Junior College.

As a result, it was found that many guardians who used the “day care for infants” service made requests and gave encouragement, while understanding that this project is for training nursery school teachers. The parents appear to trust S Junior College. The first-year students who just experienced the “day care for infants” found their experience very worth while.

キーワード：自己評価、託児サービス、共同開催、実績の構築

I はじめに

各大学においては、2002年に施行された学校教育法の改正（第69条の三2項）に基づき、7年ごとに認証評価機関による評価を受けることが義務付けられた。評価項目では、定員充足への努力に加えて、「教育のための外部資金の獲得を積極的に推進する取り組み」に関する内容が目立つ（佐藤 2008）。短期大学においては、18歳人口の減少や4年制大学への進学者増加に伴い、2008年度入学定員充足率が100%に満たない学校が全体の67.5%に及んでいる（私学経営情報センター 2008）。大学間の競争的環境のなかで、保育者養成を使命とする短期大学が入学定員を充足し続けるためには、文部科学省が2003年に打ち出した「特色ある大学教育支援プログラム」等の外部資金を充実させることにより、資格に直結する専門性をより高め、充実した学生生活を提

供できるような教育環境の整備を図ることが求められよう（井頭 金山 2007）。

しかし、スタッフ数に限りがある小規模短期大学にあっては、認証評価や外部資金獲得等に関わる膨大で迅速性が要求される作業を円滑に行うことは容易でない。このような課題に効率的に対応するには、大学が取り組む各種事業の保育者養成における位置づけを整理し、学生に対する有効性を客観的に評価、検証した上で、学術的な検討を加えて対外的に報告する必要性を感じている。またそれは、縦断的に取り組むことにより、人材育成のための独創的な実績として構築されなければならない。

以上の理由から、本稿では、1973年より地域の公民館や婦人会と共同開催している大学公開講座の付帯サービスとして展開されるS短期大学保育科1年生による3歳未満児を対象とした託児を取り上げることとした。そして、特に2005年度から2007年度

* Toshiaki TAKEDA 教育学部教授
** Chihiro KANAYAMA 聖和短期大学 准教授
*** Yukari USUI 聖和短期大学 准教授
**** Masahisa TAKATA 聖和短期大学 教授

に渡る取り組みの中でS短期大学の保育者養成における本事業の位置づけを明確化し、託児体験学生の自己評価とサービスを利用した保護者の感想の双方向から、事業の有効性を確認することを目的に取り組んだ。ここで得られた結果は、本事業が時代のニーズを踏まえた保育士養成に沿った取り組みとしての展開を図るための方向性を探る資料とした。

II 地域共催型公開講座及び託児サービスの取り組みに関する概要

公開講座「幼児教育大学」は、S大学及び短期大学部が約35年前から公民館や婦人会を中心とした地域の住民組織との共同開催により実践している大学開放事業である。講座では、受講者の大半が子育て中であることを考慮し、付帯サービスとして発足当初より学生が中心となった託児を提供している。3歳未満児を対象とした託児は10年前に設置され、短大1年生が担当している。この短期大学保育科では、2年という短期間の中で乳児と触れ合う貴重な機会の拡大をはかり、保育者としての専門意識の向上を誘うことをねらいとして、1学年時後期に学生全員（156人～186人）が公開講座において3歳未満児の託児を担当している。この取り組みは学生の自主的なボランティア活動であるが、特色ある大学教育支援プログラムへの提案を目指した2005年以降は、藤後ほか（2005）を参考に、専門職教育の実践の一端を担う、単位外の実習前体験とその位置づけを整理した。託児事業では学生の自発性が求められることから、学生個々が有益に取り組むための動機づけが必要になる。したがって、3歳未満の乳児期の子ども理解を含めた託児に関する事前準備は、入学時より開講される教師論・基礎演習（6名の教員による分級システム）等各種教科科目との連携を視野に入れながら行われている。そこでは、託児のステーションとなる附属幼稚園と連携を図り、幼稚園教諭による保育者の業務実態を伝える内容も含んでいる。

また、ここでの託児付き公開講座事業を推進するためのマネジメント体制については、学内に短大教員、大学教員、法人職員、付属幼稚園教諭からそれぞれに委員を選出し、地域の公民館、婦人会のメンバーと合同の委員会を設置し取り組んでいることに特徴をもつ。

加えて、併設校である4年制大学の教育学部幼児

教育学科でも2年時の総合演習（5名の教員、5クラスの分級システム）の授業内に託児を組み入れ、3クラスの学生が3歳から小学低学年の託児を担当している（図1参照）。参考までに2006年度の参加者を示しておく（表1参照）。

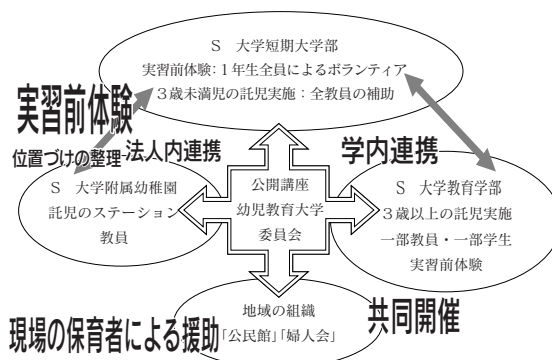


図1 地域共催型公開講座及び託児サービスの概要

表1 2006年度における該当活動参加者数

内訳	9月30日	10月28日	11月18日	計
参加学生				
教育学部	25	23	25	73
保育科	52	52	52	156
教員	6	5	5	16
幼稚園教諭	4	4	4	12
委員	9	8	9	26
共催者	9	6	6	26
講座参加者	107	115	97	319
3歳未満(託児)	38	35	23	96
3歳以上(託児)	57	57	46	160

表1が示すように託児事業は、保育科1年生生全員156人が、のべ96人の3歳未満児を担当した。託児現場における学生へのサポートは、専任教員全員（15名）がローテーションを組んで対応している。

授業内容を通じたサポートでは、初期段階として、前期開講科目である小児保健実習において、子どもへの具体的援助法に関する情報を整理する意味を含めて、学生個々が乳児の発達に応じた遊びや絵本等に関するファイルを作成し、教員によるチェックの後、学生間でロールプレイを実施している。次の段階にあたる後期開始後は、アドバイザーアワーを活用して、公開講座および託児の意味、内容へと学生の理解を深める援助をはかり、実習前体験としての意義を伝えている。最終段階として託児終了後は、専門職としての保育者のスキルを探究するための自己課題を発見し、課題に取り組む姿勢を培うように努めている（図2参照）。

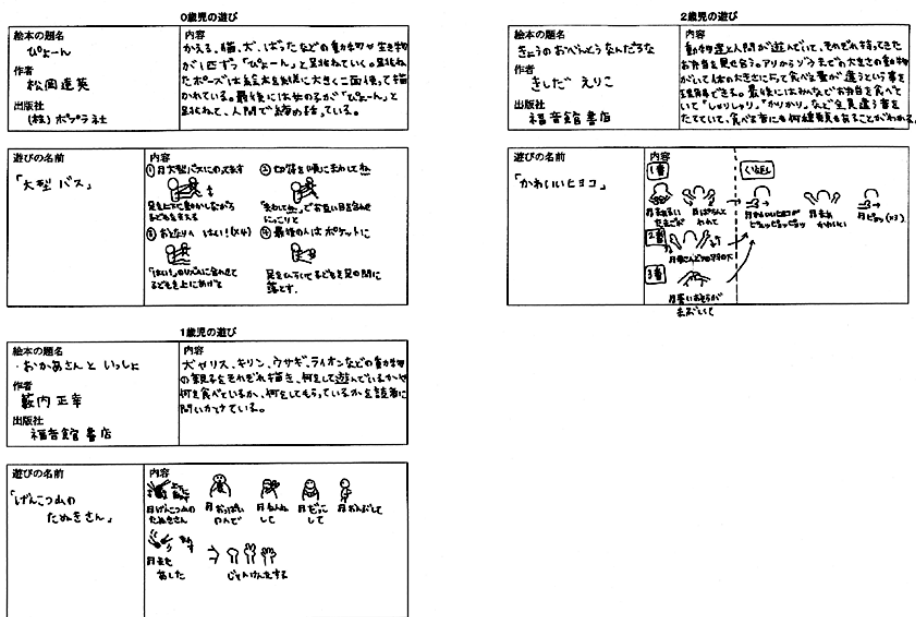


図2 学生個別の事前準備・記録用紙

課題発見のきっかけとなる記録の必要性については、託児を振り返ることで、託児中の出来事や学びを整理するという意味合いを持つことを明確に伝えている。具体的な記載内容は、来園時の様子、預かり時の保護者からの情報、託児時間における遊びの展開と援助、託児終了時の迎えに際して保護者にどのようなことを伝えたのか、半日間ではあるが初対面の子どもと関わった経験への感想などで構成している。特にここでは、保護者と直接かかわった内容を整理することにより、乳幼児のみならず、年長者との対話の重要性を示唆することもねらいの一つとなる。実習の模擬的体験として記録を経験しておくことは、保育者としての専門性を培う上で重要である(中原 2006)という意識を教員と学生で共有する方向で取り組んでいる。

Ⅲ 研究の方法

1. 参加学生への質問紙調査の実施

サービス発足当初より2004年までは、担当学生に対して実践直後に感想の記載を求めた。しかし、実習前体験と体系づけた2005年からは、その有効性を確認するために構造化した質問紙調査を実施している。加えて、本取り組みの体系化を目指して、2年生時の本実習終了後にも質問紙調査を実施した。本稿で報告するデータは、2005年度入学生については a2005年度(1年生時)及び a'2006年度(2年生時)に、2006年度入学生については b2006年度(1年生

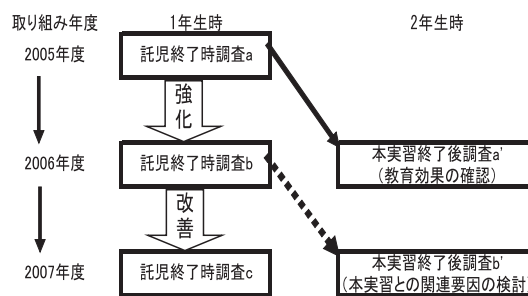


図3 取り組み年度と託児参加学生の状況にみた研究の枠組み

時)及び b'2007年度(2年生時)に、2007年度入学生については c2007年度(1年生時)に得たものである。3カ年に渡る取り組みの流れを研究の枠組みとして図3に示す。分析の対象数は、a=181、a'=177、b=140、b'=139、c=140である(但し、記入漏れにより各質問項目の対象数は異なる)。

1) 託児体験直後における質問紙調査の実施

託児体験直後に実施した質問紙調査は、①講座の趣旨理解、②託児の意義、③準備、④保育技術(手遊び等)、⑤保育者になりたい気持ち、⑥経験の役立ち、⑦実習への役立ち感、⑧子ども理解、⑨後輩に勧めるか、⑩親への育児支援の10項目について、「非常にあてはまる」「まああてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の5点リッカート尺度により構成した。

2) 本実習経験後における質問紙調査の実施

本実習経験後に実施した質問紙調査の内容は、①子どもへの接し方、②子どもへの話し方、③指導案などの計画・作成、④環境整備、⑤実習前の不安軽減、⑥子ども理解、⑦本実習に対する託児の体験の役立ちの7項目である。これらは、「非常に役立った」「まあ役立った」「どちらともいえない」「あまり役立たなかった」「役立たなかった」の5点リッカート尺度により測定した。

3) データ処理

本調査で得られたデータは、カテゴリカルデータにはクロス集計を、リッカート得点には平均値を用いて、関連要因を比較検討した。また、本データは、特色ある大学教育支援プログラム（文部科学省2007）の応募を視野に入れ、その枠組みに対応する方向で用いた。2007年度5月に応募の後、文部科学省より取り組みに対する改善点の指摘があったため、2007年度11月からは、改善に向けて再検討を開始した経緯がある。

2007年度から開始した再検討改善に向けての取り組み（具体的には、教育効果の測定指標）に関する情報を集約するための手法としては、託児体験直後に測定した質問項目に対して、因子分析（主因子法、ノーマルバリマックス回転）を施し、得られた因子得点を用いて関連要因を比較検討した。3群以上の比較検討に際しては、一元配置の分散分析を施した後、多重比較を行った。分析にはSPSS15.0J for windowsを使用した。

なお、ここでのデータは、年度による調査実施時期や内容については多少のバラツキを伴ったため、今後の検討課題と考えている。

2. 保護者に対する調査

サービスを利用する保護者に対しては、全ての講座が終了した後に無記名による自由記述形式のアンケート調査を実施している。本研究では2003年から2006年度までの4カ年分の回答内容を①子どもの様子に関する事、②託児全体の感想に関する事、③託児を希望する理由に関する事の3点から整理した。

IV 結果と考察

1. 託児サービスを利用した保護者の感想

2003年から2006年度まで（4カ年分）の保護者を

対象とした自由記述によるアンケート調査の回答127件を①子どもの様子（44件）、②託児全体の感想（46件）、③託児を希望する理由（37件）の3つのカテゴリーに分類した。

①子どもの様子については、「泣いた」、「2回目以降の様子の変化」、母子分離に伴う「期待」や「戸惑い」等が代表的な感想である。また、②託児全体の感想では、学生に対して「子どもの受入れの様子」、「託児中の子どもの様子を知らせてほしい」「1人の子どもを複数の学生が担当すること」への賛否、「自信を持ってほしい」「好感」「子どもをあずかる際のマナー」等、本事業が保育者養成の一助であることを踏まえたうえで、要望や励ましを示す意見が多かった。さらに、③託児を希望する理由については、「3歳未満児の託児付き講座の希少性」「S短期大学の託児だから」「若い人との交流」「子どもと離れる時間」等、公開講座における託児サービスへの期待やS短期大学への信頼の様子が推察された。実際、託児に関連した講座のリピーターは多い。

具体的記述内容については、論文末尾に付録資料として記載した。

2. 託児体験直後の学生アンケート調査の結果

①講座の趣旨理解、②託児の意義、③準備、④保育技術（手遊び等）、⑤保育者になりたい気持ち、⑥経験の役立ち、⑦実習への役立ち感、⑧子ども理解、⑨後輩に勧めるか、⑩親への育児支援の10項目（5点リッカート尺度）について2005年及び2006年の託児体験直後に尋ねた結果を図4に示す。

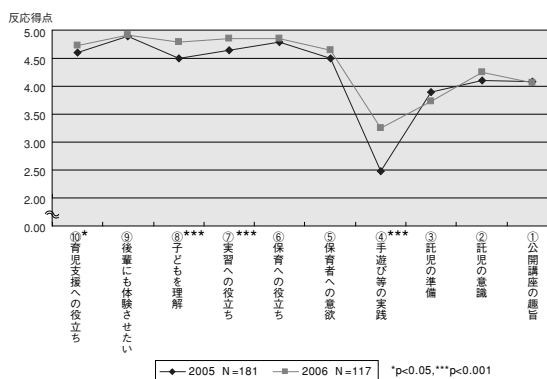


図4 2005年・2006年託児直後のアンケート調査の平均値の比較

質問項目毎の平均値は全体的に高く、学生は託児の体験を好意的に受け止めている様子である。中でも、「今後の保育の勉強に役立つ」、「実習に役立つ

つ、「後輩にも経験させたい」、「託児が育児支援に役立っている」等の質問項目は、反応得点で4.62～4.87と特に高い値を示した。その反面、「託児の準備」や保育技術に関わる「手遊び等の実践」の評価は低く、保育者としての専門性を直接的に問われるような項目については自己課題を多く残している。このことは、実習前の学生が自己課題として手あそびのレパートリーを増やすことなど、直接的な保育技術に時間をかけて研鑽を積むことに重点をおく傾向にあるとする神戸(2008)の報告に類似していた。

また、2006年度は各教科との連携を図り、動機づけを強化したことから、全体的な評価が上がっている。中でも、「手遊び等の実践」、「実習への役立ち」、「子どもを理解」、「育児支援への役立ち」に関する項目については、対前年度比較で有意差を認めている。関連授業を通しての動機づけの強化は、これらの内容に反映される可能性を含んでいる。しかし、「託児の準備」や具体的な援助についての項目の反応得点は他の項目に比べて低い傾向にあることは否めない。このことは、子どもとの触れ合いを通して、柔軟な対応の難しさを実体験した成果と考えられる。

3. 教育・保育実習終了後の学生アンケート調査の結果

託児を体験した保育科2年生を対象に、保育者養成カリキュラムにおける教育・保育実習終了後に質問紙調査を実施した結果を表2及び図5に示す。7項目(5点リッカート尺度)にて尋ねた結果、託児体験が「非常に役立った」「まあ役立った」と回答した学生の合計が57.38%あった。託児体験の後1年が経過しており、なおかつ教育・保育実習後の調査結果であることから、託児体験の印象の強さが推察できる。加えて、2006年と体系化を計った後の2007年の比較において5%水準で有意差が認められた項目は、①託児体験の役立ち、⑦子ども理解で

あった。2007年度が高かった項目は、①託児体験の役立ち、⑤環境整備、⑥実習前の不安軽減である。また、2006年度が高かった項目は、②子どもへの接し方、③子どもへの話し方、⑦子ども理解である。加えて、④指導案などの計画・作成は両年度ともに評価が極めて低い傾向にある。木原ほか(2003)は、教育実習生の心配に関する報告において、授業経営、指導法、子どもへの配慮、授業計画をあげ、実習生の指導案に関する心配は実習期間中常に存在し、初期段階では指導法に関する心配が高く、徐々に子どもへの配慮へと移行することを報告している。また、子どもとのコミュニケーションに関する不安は実習後に軽減されるとする報告(森脇ほか2008;高橋ほか2007)にもあるように、体系化以前の託児体験は子どもと接することに意味合いを持っているのが分かる。

しかし、全項目の中にあっては評価が低いものの、指導法や技術に関する項目は、体系化を図ったことによって、意識される傾向にある。指導案や記録に関しては、各実習園の特徴や担当クラスに伴う子どもの発達への配慮が顕著に現れる。また、託児体験への動機づけの段階において導入が難しいこともあり、作成に関するスキル等を含め、本実践での取り組みの中で培うことが難しいことが推察される。

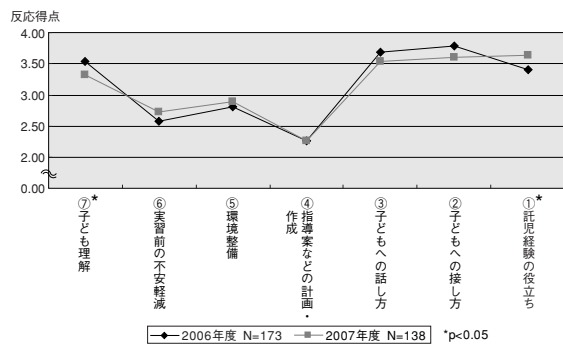


図5 2006年・2007年度教育・保育実習終了後のアンケート調査における平均値の比較

表2 本実習終了後調査 託児経験の実習への役立ち

年度	非常に役立った	まあ役立った	どちらともいえない	役立たなかった	役立たなかった	合計
2006年度	19	75	49	13	13	172
2007年度	16	65	40	1	1	133
合計	35	140	89	14	14	305
	11.05	43.60	28.49	7.56	7.56	100.00
	12.03	48.87	30.08	0.75	0.75	100.00
	11.48	45.90	29.18	4.59	4.59	100.00

4. 改善点に対する取り組み

1) 課題の発見

本研究において実践的インプリケーションを誘うためには、調査の結果を踏まえたうえで、事業の今後の展望についての課題を考察する必要がある。

託児サービスを利用する保護者の意見からは、公開講座事業における託児の定着性と担当学生の将来的な成長への期待感から、S短大の保育者養成に対する理解が見て取れる。要望に関連しては、託児の子ども数と担当学生数のバランス等に関連した託児環境や学生の対応等、託児の人的環境への配慮が必要である。

一方の学生については、乳幼児や保護者と接する機会としては有効であるが、保育技術向上への具体的展開を図るためには、保育専門職としての学生に与える教育効果の測定方法が課題である。加えて、カリキュラム上での明確な位置づけを示すなどの整備が必要になる。地域の住民組織を含めた地域連携の意義を伝えることも大切になろう。

2) 改善点を踏まえた具体的取り組み

調査結果を踏まえて後、2007年度入学生に対しては、①託児の様子をイメージすることを目的として、託児中の映像記録を示した。

また、②子どもを学生にあずける親の気持ちの理解や子育て支援事業に対する取り組みの理解を深めることを目的に、保護者に対するアンケート調査を開示し、子どもの様子、託児全体の感想、託児を希望する理由を踏まえて、学生による託児を利用する

保護者の気持ちを想像させた。

さらに③保護者の気持ちを踏まえた上で、託児を担当する自分自身の“心がけ”について考え、自己課題を確認させた。以上の3点が2006年度の取り組みに付加した内容である。

5. 改善点を踏まえた効果測定尺度の検討

1) 託児体験直後アンケート調査の因子分析

上記の改善点を踏まえた取り組みに関する効果測定尺度の開発を目指し、2007年度1年生に対しては、13項目の設問を設け、「非常にあてはまる」～「全くあてはまらない」の5点リッカート尺度にて託児体験直後に尋ねた。その内容を以下に示す。①託児の必要性、②教材研究など託児の準備、③子どもを預かる際、保護者への挨拶、④子どもを預かる際、保護者との関わり、⑤子どもを返す際、保護者との関わり、⑥子どもに対する配慮、⑦自身の託児イメージとの合致、⑧託児中（子どもに対する）の言葉遣いや態度、⑨保育者への意欲、⑩保育の勉強への活用、⑪実習への役立ち、⑫貴重な機会を得た、⑬後輩にも体験させたい。

ここでは、情報を集約するための方法として因子分析を実施した。直行回転後の結果を表3に示す。結果は、1.0以上の因子が4個抽出され、全分散の48.95%の説明率をもった。因子負荷量を考慮し、それぞれの因子は、専門職への意欲に伴う「学習意欲」、託児中の子どもへの配慮や事前準備を示す「配慮・準備」、保護者との挨拶や情報交換を示す「保

表3 託児経験直後アンケート調査の因子分析

質問項目	学習意欲	配慮・準備	保護者対応	必要性の理解
⑩保育の勉強への活用	0.91			
⑪実習への役立ち	0.63			
⑨保育者への意欲	0.52	0.40		
⑥子どもに対する配慮		0.75		
⑦自身の託児イメージとの合致		0.66		
⑧託児中の言葉遣いや態度		0.58		
②教材研究など託児の準備		0.37		
⑤子どもを返す際、保護者との関わり			0.87	
③子どもを預かる際、保護者への挨拶			0.64	
④子どもを預かる際、保護者との関わり			0.61	
①託児の必要性				0.61
⑬後輩にも体験させたい				0.40
⑫貴重な機会を得た				0.40
固有値	1.82	1.78	1.64	1.13
寄与率	13.97	13.70	12.62	8.66
累積寄与率	13.97	27.67	40.29	48.95

因子負荷量0.3以上の質問項目をその大きさ順に配列

護者対応」、保護者に対する託児の必要性や自己の体験の有用性に関する機会としての「必要性の理解」と解釈した。

2) 関連要因にみた託児直後評価因子の比較

本研究で取り上げる託児は一人の学生につき1日だけの経験である。ここでは、託児に参加する子どもの数や年齢、学生同士の情報の流れによる影響を考慮し、先に得られた4因子の因子得点を利用して、実施日別の比較を試みた。一元配置の分散分析後の多重比較の結果を図6に示す。

3日間の開催日の中で、最終回に参加した学生の「学習意欲」因子が他の2回と比較して有意に低かった。また、有意差は得られなかったが、初回に参加した学生の保護者対応が低い傾向にあり、2回目に参加した学生の評価は相対的に高い傾向にある。

託児初回、最終回は講座全体での準備や片づけに追われることが多く、特に最終回は参加する子ども数が少なくなる傾向がある。また、最終日の参加者は保護者対応に評価が高かったことを考慮すると、託児や講座全体に関与するマネジメントや学生同士の情報による影響が推察された。

次に、託児に参加している3歳未満児の平均月齢から、1歳8ヶ月以上の子どもの担当とそれ未満の子どもの担当の2群により4因子を比較した(図7参照)。結果は「必要性の理解」因子において1歳8ヶ月以上担当群が有意に高い値を示した。結果か

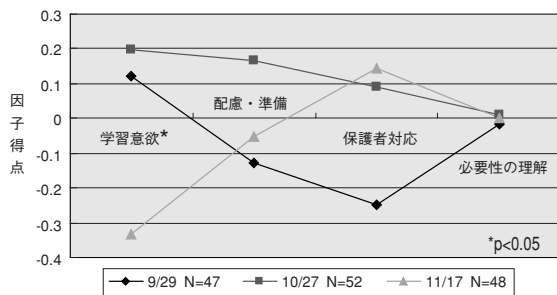


図6 託児直後評価因子の担当日別比較

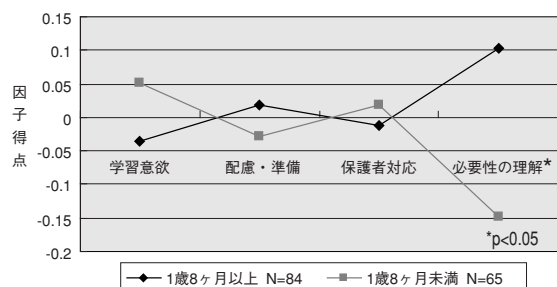


図7 担当児の年齢にみた託児直後評価因子の比較

ら、ある程度年齢が高い子どもを担当した学生の方が、子育て等に関わる支援や子どもに直接的に関わる経験の意義を認識しやすいことが示唆された。

3) 3歳未満児と接した経験と実習前不安軽減の関係

図8は3歳未満児と接した経験と託児の実習前不安軽減効果との関連を確認した結果を示したものである。2007年度2年生を対象として保育者養成カリキュラムにおける教育・保育実習終了後に尋ねた結果、託児以前に3歳未満児との接点が「たまにあった」と回答した群が「全く無かった」と回答した群よりも不安軽減につながったとしていた。木原(2003)の報告にもあるように、対象児に対応する経験が全く無いよりも少々あるほうが、相手への配慮や興味が高く、託児の実践はそれゆえに高まる不安を軽減する可能性をもつことを予想した。

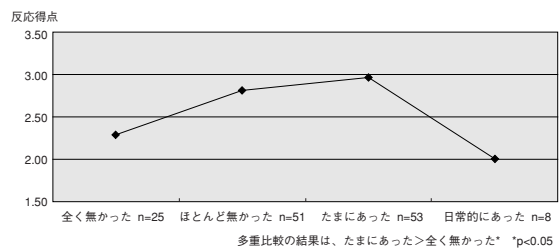


図8 3歳未満児と接した経験と実習前不安軽減の関係(2年生時実習終了後)

V まとめと実践的意義

本研究は実践事例として、S短期大学が地域の公民館や婦人会と共同開催している大学公開講座に付帯する保育科1年生による3歳未満児の託児サービスを取り上げた。その目的は、S短期大学の保育者養成における本事業の位置づけを明確化し、託児体験学生自己評価とサービスを利用した保護者の感想の双方向から、事業の有効性を確認することであった。ここでの取り組みは、小規模短期大学が認証評価や外部資金獲得等に関わる作業を円滑に進めるための実績の構築として意義をもった。

サービスを利用する保護者については、2003年度から2006年度までの自由記述アンケートの回答内容を①子どもの様子に関すること、②託児全体の感想に関すること、③託児を希望する理由に関することの3点から整理した。

託児を体験した学生については、2005年度から2007年度に渡る取り組みの中で、それぞれ1年生時

の託児体験終了直後及び、2年生時の教育・保育実習終了後に、質問紙調査を実施した。得られたデータは、カテゴリカルデータにはクロス集計を、リッカート得点には平均値を用いて、関連要因を比較検討した。また、教育効果の測定指標に関する情報を集約するための手法としては、2007年度託児体験直後に測定した質問項目に対して、因子分析（主因子法、ノーマルバリマックス回転）を施し、得られた因子得点を用いて関連要因を比較検討した。3群以上の比較検討に際しては、一元配置の分散分析を施した後、多重比較を行った。

その結果、以下のような示唆を得た。

- 1) 託児サービスを利用する保護者については、本事業が保育者養成の一助であることを踏まえたうえで、要望や励ましを示す意見が多かった。また、公開講座における託児サービスへの期待やS短期大学への信頼の様子が推察された。
- 2) 託児体験直後（1年生時）における学生は、体験を好意的に受け止めている様子であった。しかし、保育技術に関わる項目の評価は低く、保育者としての専門性を直接的に問われるような項目については自己課題を多く残している。
- 3) 2006年度は各教科との連携を図り、動機づけを強化したことから、2005年度よりも全体的な評価が上がっていた。
- 4) 教育・保育実習終了後（2年生時）の調査では、託児体験の好印象さが推察できた。また、2006年と体系化を図った後の2007年の比較においては、体系化以前の託児体験は子どもと接することに意味合いを持っており、指導法や技術に関する項目は、体系化を図ったことによって、意識される傾向にあった。指導案や記録に関しては、作成に関するスキル等を含め、本実践での取り組みの中で培うことが難しいと予測した。
- 5) 改善点を踏まえた取り組みに関する効果測定尺度の開発を目指した2007年度1年生に対する調査においては、因子分析を用いて情報を集約し、得られた4因子の因子得点を利用して、実施日別、担当児の年齢別の比較を試みた。実施日や担当児の年齢により有意差を認めたことから、自己評価には、託児や講座全

体に関与するマネジメントや学生同士の情報による影響が推察された。

- 6) 託児体験以前に3歳未満児と接した経験と託児の実習前不安軽減効果との関連を確認した結果、対象児に対応する経験が全く無いよりも少々あるほうが、相手への配慮や興味が高く、託児の実践はそれゆえに高まる不安を軽減する可能性をもつことを予想した。

以上の結果を踏まえたうえで、時代のニーズを踏まえた保育士養成に沿った取り組みとしての展開を図るための方向性を具体的に検討するならば、①託児については現状1回のみ経験であることから、カリキュラム上にて展開できる教科科目、例えば在宅保育論等との連携が課題になる。また、②担当学生が乳幼児と接した経験等に配慮した周囲の援助や、託児を利用する子どもの数と対応する学生の数等に対する配慮を踏まえたマネジメントが必要になる。さらに、③カリキュラムとしての有効性を客観的に評価できる指標の開発が急がれる。これらは125年以上にわたり保育者養成の歴史をもつS短期大学としての特色を踏まえつつ、所属法人や地域との連携を視野に入れながら展開されなければならない。

引用・参考文献

- 藤後悦子・岡本エミ子・山本和子 2005 保育体験を中心とした教育プログラムの有効性 国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要(5), 57-68.
- 井頭均・金山千広 2007 本学 [聖和大学] 短期大学部学生の生活実態調査 聖和大学論集 A・B, 教育学系・人文学系(35), 9-13.
- 神戸洋子 2008 幼稚園教育実習指導における保育者としての課題: 「生活者として」の力をつけるためにマスターペーパーを活用する. 埼玉純真短期大学研究論文集1, 47-54.
- 金山千広・武田俊昭・碓氷ゆかり・高田正久 2008 地域共催型公開講座における託児サービスの実践—託児経験学生の評価とサービス利用者の感想からみた展望—全国保育士養成協議会第47回研究大会研究発表論文集, 150-151.
- 木原成一郎・磯崎尚子・磯崎哲夫 2003 教育実習生の小学校体育科指導の心配に関する事例研究 日本教科教育学会誌25(4) pp.29-38日本教科教育学会.
- 文部科学省2008特色ある大学教育支援プログラム(特色GP) http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/tokushoku/shien.htm.9/15/2007.
- 森脇裕美子・島崎保・高橋秀典・井上光一・植田有美子・中磯子・田中麻貴 2008 より有意義な保育実習の実現に向けて1 —保育実習における実習生の不

- 安に関する研究—日本教育心理学会第50回総会発表論文集, 268.
- 中原大介 2006 保育体験実習が学生の学習意欲に及ぼす影響についての一考察 創発:大阪健康福祉短期大学紀要4, 95-106.
- 日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター 2008 平成20(2008)年度私立大学・短期大学等入学志願者動向. <http://www.shigaku.go.jp/shigandoukou20.pdf>. 7/06/2008
- 佐藤浩章 2008 教育系外部資金獲得のために必要な教育プログラムの要素. 大学教育ジャーナル第6号 愛媛大学教育企画室. http://web.opar.ehime-u.ac.jp/publishment_jnl.htm.
- 高橋秀典・島崎保・井上光一・森脇裕美子・中磯子・田中麻貴 2007 保育実習前の実習生の不安要因 日本教育心理学会第49回総会発表論文集, 183.
- 付記; 本稿は、全国保育士養成協議会第47回研究大会(2008)の発表論文を骨子として加筆修正したものである。**

付録資料；2003年度～2006年度 参加者(保護者)を対象としたアンケート結果（カッコ内数字は類似意見の個数を示す）

1. 子どもの様子

- ・母親と離れる機会がほとんどないのでとてもいい経験になった。
- ・毎回楽しみにしていた (2)
- ・配慮も行き届きよかった。たくさんの学生とふれあうことができるのは、子どもにとってとても良いことだと思う
- ・若い人と話す機会が普段はないので良い経験になった
- ・託児をしている姿が見れないのが残念
- ・1回目は、泣かずに自分から進んで託児に行ったのですが、2回目は泣いている子が周りにたくさんいた為、嫌がり少し泣きました。
- ・最初は戸惑っていたが楽しかったようです。
- ・1回目は、楽しそうに遊んでいた。2回目は、朝からぐずり気味だったので、やっぱり先生を困らせた。3回目は、朝からぐずり気味!!泣きまくっていた。
- ・最初泣いていたようですが、外に散歩に連れて行ってもらって気分がよくなったようです。
- ・初日少し泣いたものの後は機嫌よく過ごさせて頂いたようで良かったです。
- ・最初は教室に入るのを少し渋っていたが、迎えに行ったら楽しそうであった。
- ・最初はおもちゃや美しいお姉さん達に囲まれて、とても楽しく遊ばせて頂いたようですが、おしっこが出来ず大泣きした印象が強かったようで、今日も園の門を見ただけで泣いていました。
- ・預ける時は不安そうで暫く手を離しませんでしたが、講座が終わり迎えに行くと、とても楽しそうに、何をして遊んでいたかを話してくれて安心しました。
- ・他人に子どもを預けるのは、初めてだったので心配でしたが、どのような反応をするか楽しみでもありました。時々ぐずぐず言っていたみたいですが、外に連れて行ってもらったりしてもらって、何とか頑張れたようです。
- ・1回目は、2人とも大泣きで中々離れてくれませんでした。でも預けた後は学生さん達のフォローで楽しく過ごせたようです。
- ・初めは必ず泣くのですが、お姉さんとよく遊んでいました。根気良く見ていただいているようで楽しんでいるようです。
- ・まだ小さいせいか離れる時も何ともなかった。部屋が明るく楽しい雰囲気なので、ワクワクした表情で周囲を見回していた様子。
- ・初めての託児だったので心配したが、泣くこともなく楽しそうに遊べた。
- ・親と離れる瞬間に泣きましたが、楽しく過ごせたよう。ただ2日目は雨天だったので、外遊びができない時、動きが活発な子の対応が大変だったのでは？
- ・離れる時は泣いていましたが、家に帰るとどのようなことをしてきたか良く話すので、楽しめてきていると思う。
- ・下の子(1歳)は、初めてでどうかと思いましたが、回を重ねるごとに慣れてきたようです(いい経験でした)。
- ・初日は泣きましたが、2回目はそれ程泣かなかったので、子どもなりに慣れたようです。家に戻ってから、初日は、やはり初体験のことだったので私にべったりして疲れた様子でしたが、回を重ねるごとにいい刺激になるのか、表情がしゃかりしてきたように思いました(親バカかもしれませんが)。
- ・とても喜んでいて、もっと遊びたがっています。
- ・託児が初めてということもあり、2歳なりに緊張していたようで、1回目は家でもあまり何をしたなどの話はしませんでした。でも今日(2回目)は、幼稚園の門を見てパット顔が明るくなりました。
- ・初めは泣いていましたが、毎回楽しみに来ていました。色々工夫されていて、又丁寧に見てくださり、ありがたかったです。初めての託児でしたが、いい経験だったようです。
- ・下の子(2歳10ヶ月)は、初回は少し緊張した表情だったが、離れる時もスムーズにいきました。兄の園で、自分も名札をつけてお部屋で遊べるのが嬉しかったようです。
- ・初回は私から中々離れず泣いてばかりいまして、昨年の方がすんなり離れてくれました。逆に分かってきたのか3人がかりで離させて頂いて、可愛そうと思いながら去りましたが、迎えに来た時は180度変わっていてびっくりしました。すごく楽しかったようで、すっかり安心しきっていたのが印象的でした。
- ・今回は、機会が持てず子どもに話せずにおりましたが、兄弟の内1人での参加となると、不安がって互いが安心できる託児は難しかったかなと思われましたが、2人同時での参加なら兄弟2人で力を合わせて不安を楽しみに乗り切ってもらえたのではと思ったりしています。
- ・毎回、毎回泣きじゃくって離れませんでした。託児の方には、ご迷惑をおかけしました。
- ・いつも楽しみにしている。
- ・2人とも(5歳6ヶ月、2歳8ヶ月)楽しく過ごしたようです。
- ・初めて託児を利用したのですが、離れる時は大泣きでしたが、講義が終わり生徒さんに聞くと、途中から機嫌良く遊んでいたようで安心し、子どもを見直す事が出来ました。生徒さん、大変だったと思いますが、ありがとうございました。

- ・去年に比べて子どももしゃべれるようになり、少し知恵もついてきたので、「おいていかれる」と言うのが頭にあるみたいで初めは泣いていた。
- ・泣き続け、疲れて寝て起きて泣いていたようです。
- ・離れて少しは楽しく遊んでいたようですが、少しすると泣いて捜していたようです。
- ・とてもご機嫌でした。1日目はずっと眠っていたようで、家ではあまり寝ないのでびっくりしました。丁寧にみて頂きまして安心でした。
- ・初めての日は、泣きじゃくっていましたが、2回目からは泣いた後、楽しく遊んでいた様子でした。
- ・3歳児（初めて預ける）は、始めと終わりは泣いていたらしく反応なし。2歳児（2回目）は、初回は終わりに泣いていたが場所を覚えていたのか慣れた様子で遊んでいたようだ。
- ・上の子（3歳6ヶ月）も下の子（1歳1ヶ月）も非常に楽しそうでした。上の子は白組で工作が非常に楽しいらしい。下の子（1歳11ヶ月）は、迎えに行った時、家にはいないおもちゃで遊んでいました。
- ・楽しそうにできて安心した。
- ・3歳の子は、殆どマンツーマンに近い状態で大学生のお姉さんに保育して頂いて、甘えられて満足しているようでした。
- ・結構なじんでいる様子で安心。
- ・受付の時、離れなくて困ったが、帰りの頃はとても楽しそうにしていたので、連れてきて良かったと思った。
- ・泣いたり遊んだり、良い体験だったと思います。

2. 託児全体の感想

- ・子ども一人につき学生の方が2～3人ついてくださるので安心 (4)
- ・やさしく、気配りがあり、安心して預けられた (2)
- ・学生の方や先生にはよくしていただいて感謝しています
- ・丁寧に様子を知らせて頂いた
- ・急病で託児を欠席する際の連絡先がなく、大変申し訳なく思った
- ・始めて託児を利用したので、心配でしたが、とても楽しかったようで、本当にありがとうございました
- ・入室の際、子どもにたくさん話しかけてくださり、緊張をほぐしてくださいました
- ・学生たちが一生懸命で好感が持てます
- ・マンツーマンで相手をしてもらっていたので、とても良かった。
- ・子ども1人につき、2人もついて下さって、安心してお任せできました。
- ・託児の前に、本人の好きな遊びや歌を聞いてくださった学生さんもいて、好感がもてました。
- ・学生さんの受入れの気持ちにより、子どもの反応が随分違う。学生さんが、不安に思っていると子どもも不安に思うようでした。もっと自信を持ってね。
- ・兄弟、同じクラスにしてもらって、良かったです。
- ・1人につき1人の方が子どもについて頂けるので、たとえ学生でも安心して預けられます。
- ・学生の皆さんは、前もって準備して頑張ってくださいているのがよく分かりました。
- ・年齢別クラス分けが、すごく良いと思った。学生の人に先生として体験させる事は素晴らしいと思う。泣く子どもにどうしたら良いか?とか色々悩むのも学生の勉強になるでしょうね!アンケート(保育メモ)などを書いてほしい。学生にも勉強になると思う。特に実習未経験の学生は...
- ・毎回安心して子どもを預けることができ良かったです。
- ・「小学校低学年まで」というのが残念です。
- ・保育して下さる方々がとても多いので安心して預けられます。
- ・2歳児に1人に2人の学生さんがついてくれるので、とても安心して任せられました。3歳児のように何かを作ったり(粘土、工作、おりがみ)、教えてもらえたら嬉しい。みんなで話を聞いたりできるような状態ならば紙芝居をしたり、体操をしたり、広い園庭で冒険したり(強制じゃなくて)するようにしてもらえたら嬉しい。
- ・2歳6ヶ月で3歳未満のクラスだったけれど、できればもう少し細かくクラスを分けてほしい。例えば、2～3歳とか。
- ・泣き叫んでごめんなさい。立派な先生になってくださいね。
- ・どの程度育児を知っておられるか分からず、説明しましたが不安があったのでは...
- ・お布団が用意されていたので安心しました。1人の子に2人も学生の方がついてくださるので、充分すぎるぐらいだと思います。
- ・学生さんが頑張ってくれていて有り難いです。
- ・託児中を見ていないので何とも言えませんが、1人に2人の学生さんがついてるので、かまいすぎではないかと感じました。クラスの中に気が合う子どもさんがいたらいいと思います。できれば皆で歌ったり、お遊戯などをしていただけると家ではできない事なので嬉しいです。

- ・泣いて「ママさみしい」とむずかるお子さんを置いて、逃げるようにして講座会場に伺われる親御さんを見かけました。同じ子を持つ親として親御さんのお気持ちが分からないでもないですが、もう少し安心して別られる工夫（例えば人形劇とか手遊び歌とか気をそらせる催しをして頂けるなど）をお互いにできれば、より安心してあの親御さん達にも楽しく講座に参加できたのではないかなあ？と少し本日たまたま目にした場面で感じました。
- ・学生さんをご苦労様ですが、大勢でおられると子どもはびっくりするようです。
- ・沢山のスタッフに見て頂き、とても安心して預けられます。
- ・1人の子どもに2人の方がついてくださるので安心でした。いつもいつも泣いていたので、本当にすみませんでした。嫌な顔をせずに、子どもと付き合っていてありがとうございました。
- ・学生の皆様、お疲れ様でした。そしてありがとうございました。皆様のお陰で集中して講座を聞くことができました。嬉しかったです。
- ・必ずお1人の方がついて見てくれていたので、安心して任せられました。その子の癖が分からない状態で預かったのが大変だったのですが、ありがとうございました。
- ・学生の皆さんは、皆優しくて、よく面倒を見てくれていました。
- ・学生さん達の一生懸命さが、子どもを通じての感想からも感じられました。立派な保育。
- ・学生に見てもらえるのでとても楽しい。
- ・子どもが遊んで自分から離れたスキに出かけようと思ったら、「ママ、バイバイしようね」と言われ、子どもも更に泣き顔になった。
- ・「わー可愛い」と電車の中での高校生のような反応—ちょっと大丈夫？と思ったものの、彼女達も色々頑張ってくれた様子。これからの勉強の中で色々学んでいこうと思いました。
- ・折角お世話になりましたので、先生（学生さん）のお名前をお聞かせ頂けましたら嬉しいです。また少しお話ができると良いと思いました。
- ・学生さん達が一生懸命接してくださるのが嬉しいです。
- ・1人の子どもに対して2人で見て頂けるのは嬉しいですが、反面大人ばかりが部屋の中でかさばっている感じがします。
- ・託児中の子どもの様子が全く分からないので、何か印象に残ったことなどを言ってもら（メモに残す）と良い。保育は、学生さんなので初めてづくしでかまえているのが子どもに（特に人見知りのある子）伝わっているようなので、改善、工夫してほしい。
- ・小さい子に対して2人の方について頂き、目が離れないようにして下さっているので安心して預けることができました。迎えに行った時、こんなことをして遊びましたなどの説明が赤組の方はもう少しあってもよかったなと思いました（何かを飲んだりしたなど）。
- ・2歳前後は成長の差が大きくなるので、2～3歳児ぐらいのクラスを作ってほしい。
- ・1対1で見て頂けるので、親としては大変ありがたいです。また預かっていただいている時間が講座の時間（短い）のみです。安心してこちらも勉強できます。

3. 託児を希望する理由

- ・親は安心できるし、子どもにも経験になっていると思うので。
- ・子どもと一緒に中々勉強をゆっくり出来ない。ゆっくり話を聞く事が出来ない。
- ・子どもにも親から少し離れるというのもいい事だと思うし、私の方も1人になる事も良かったと思うので。
- ・講演をゆったりと聞くことが出来て良かった。
- ・知らない場所や人に出会い、遊んでいる子どもを見て元気が出る、愛情がわく。
- ・子どもにも良い勉強になりますし、今後幼稚園へ行く準備練習になってとっても良いと思うので。
- ・やはり集中してお話を聞こうと思うと、中々子連れでは無理かと思っています。親子共にストレスを感じないためにも是非必要だと思い、希望いたします。
- ・託児があるから参加している為。
- ・子どもがいると中々希望する講座があっても参加ができないので託児があるととても助かります。子どももいつもと違った遊びが出来て良い経験になるようです。
- ・託児があるので安心して講座を受けられる。少し子どもと離れるだけで子どもを改めていとおしく思えるし、子どもの成長に改めて気付かされる。
- ・土曜でも主人が仕事なので託児がないと受講できないし、何より子どもにとっていい経験になると思います。
- ・このような託児がなければ講座に参加できないので。
- ・実家が遠い為、いつも私（母親）と2人きりなので、外の世界に出すいい機会と思いました。いろんな方に抱いて頂いたり話しかけて頂くと、子どもも新鮮に感じて楽しそうでした。
- ・託児が無ければ講座に参加できない。又、親以外に単独で触れ合う機会がないので、託児は新しい体験の場として望ましい。

- ・興味ある講座があっても申し込めずにいたから。
- ・子どもと一時完全に離れて講演に集中したい。
- ・託児付きの講演が中々なく、その上このように色々プログラムが考えられている託児は初めてだったので、本当に安心して預けられました。私も毎日子どもとべったりの日々なので、数時間でも子どもと離れて自分の時間が持てリフレッシュできました。今後は是非このような託児を希望します。
- ・子どもにとって良い経験となっている。
- ・託児のある講演会は他ではあまりなく（特に3歳以下）、テーマが育児等なので是非聞きたい為。聖和では安心して預けられる。
- ・保育園に通っておらず、また同世代の子を持つ母親と関わるのに消極的な私のような親の元で、同じような子ども達に接する機会が少ない子どもに少しでも外で他人に接する機会を作ってやりたいから。そして多人数に慣れてもらいたいから。
- ・講座にも興味があるが、子どもを聖和の託児に預けてみたかったから。
- ・自分も学べて子どもも同年代の子どもと遊べる、こんないいことはないと思います。
- ・たくさんの保育者の方のみて頂けて、聖和幼稚園の園庭でも遊ぶことが出来る機会を持てるので、親子共々安心して学び楽しめるので。
- ・託児があると1人で集中して講座を受講できるから。
- ・子どももたくさんの友達や先生と一緒に時間が楽しいようなので。
- ・ゆっくり講座を聞けるので。(4)
- ・託児が無ければ受講するのは難しい為。(3)
- ・来年から上の子（6歳3ヶ月）は小学生になります。ですが1人で留守番という訳にもいかないので託児は続けて欲しいと思います。学生の方は大変かもしれないですし、学生の方が保育するのは不安という声があるかもしれませんが。でも子どもと離れて自分のために時間が使えるという母親の幸せを作り続けて行って欲しいと願っています。
- ・本当にゆっくり安心して講座を受講できるので...(初めての経験です)。
- ・安心して参加する事ができるので続けて頂きたいです。
- ・安心して講演を聞くことが出来るので。(3)
- ・安心して受講出来ますし、託児についてもその内容を工夫し、準備してもらって子どもも楽しく過ごしていましたので。託児をして頂いた先生方、学生さん方、お世話になりました。ありがとうございました。
- ・親から離れ、いろんな人と接することができるので。
- ・子どもを預ける機会がないので、親子共に勉強になる。また母親は育児から少しの間でも解放されてリフレッシュできる。
- ・色々な機会に接して子どもの順応性が伸びればと思う。
- ・今回、子どもも親もそれぞれ楽しめた。
- ・託児が無ければ、子どもを連れて参加できる場所しか行くことができない。